



みんな違う仲間

秋晴れの続いたシルバーウィークでした。遠出をしなくてもちょっとお散歩するだけで、秋をたくさん感じることができたのではないかと思います。さて、幼稚園はいよいよ秋のBIG EVENT“運動会”が間近に迫ってきます。子どもたちの意識が学年を越えた仲間にも向けられるようになる時です。毎年、“運動会”が終わると子どもたちの距離はぐっと近くなります。他のクラスの仲間たちの頑張りを見るからでしょうか、野外劇を一緒に演じるからでしょうか、学年を越えて子どもたちがこれまで以上に身近な存在になっていきます。ランチデーの会話が豊かになり、それが遠足の日にも繋がっていきます。一人ひとりの成長と仲間としての成長が嬉しい秋です。

9月に入って愛隣幼稚園の仲間は少し増えて103名になりました。当たり前のことですが一人ひとりみんな違って、だれひとり同じ子どもはいません。似ている所はあるかもしれませんが、同じ子どもはいないので、それで幼稚園は毎日楽しいことが起こります。みんな同じでないことが素敵なことだと感じます。その仲間の中にはご両親が外国籍、あるいはどちらかが外国籍という仲間もいます。外見が違っていたり、話す言葉が違っていたりするとそれは子どもたちにもよくわかる自分との違いです。休み明け、I君がばら組の仲間になってS君は「ね、だれ？」と少し困惑気味に聞いてきたそうです。たんぼぼ組からJ君がいて、夏にT君が来て、今度はI君。また、言葉が通じなかったら・・・?!と思ったはずです。外見が違うということで子どもたちに起こる困惑を、彼は素直に表現してくれました。大人たちも同じように本当はドキドキしています。実は先生たちも身構えます。コミュニケーションがとれるのだろうかと不安になります。英語なら片言で意思の疎通ができるかもしれませんが、他の言語はお手上げになることもあります。お家の人に日本語は理解してもらえるだろうか？と不安にもなります。去年のたんぼぼ組からは時々、使い慣れない英語が聞こえてきました。J君に伝えたい、J君のことが知りたいと大人たちも必死でした。1年半後、（今、J君は長いお休みでご両親の母国にいます。）大人たちの英語は全く進歩しませんでした。J君は日本語を獲得していました。ばら組になった仲間たちにも英語が得意になった子どもは見当たりませんが、J君とみんなは仲間になっていました。違うということで初めこそ誰もが身構えました。でも、それは『違う』というだけのことだったようです。『違う』こと（使う言語が異なること）はコミュニケーションが成立しない、仲間になることができない理由にはならないようです。言葉が伝わらないということ、文化が違うということは大きなストレスです。当たり前が当たり前ではないのですから、気持ちの行き違いが沢山ありました。けんかもしました。でも、子どもたちなりにどうしたらJ君の気持ちや考えがわかるだろうか？と考えました。観察しました。感じようと思いました。それはきっとJ君も同じだったでしょう。『違う』相手を変えようとする努力ではなく、『違う』ことを承知のうえで、相手を理解しようとする努力です。自分を主張し、自分の中に取り込もうとする（同じになれということ）のではなく、相手を知ろうとする積み重ねが仲間になる方法だったように思います。

さあ、運動会です！J君がいないのは残念ですが、一人ひとりの『違う』輝きを重ね合わせて、見たこともない輝きをみんなで作ることができたら嬉しく思います。『違う』ことを知ろうとする出会いに始まり運動会のこの日には、愛隣の子どもたちが、皆、仲間がいいと感じる1日であってほしいと願っています。大人たちも皆、仲間がいい！と感じる時でありたいと思います。